

2022

人工知能美学芸術展

演奏家に指が 10 本しかないのは作曲家の責任なのか

開催にあたって

近年目覚ましい発展を遂げつつある人工知能と、人間の尊厳の拠り所でもある美学と芸術。これらを合わせて追求してきた「人工知能美学芸術展」の名を冠し、「演奏家に指が 10 本しかないのは作曲家の責任なのか」と副題した本展を、本日 2022 年 12 月 25 日、ここ東京のパルテノン多摩・大ホールにて、1 日限りの合唱付フルオーケストラ音楽コンサートとシンポジウム、並びに大ホールホワイエで開催される美術展として、皆様にお届け致します。

副題の「演奏家に指が 10 本しかないのは作曲家の責任なのか」は、アメリカの作曲家チャールズ・アイヴズの言葉です。ここから私たちは、人間という枠組を自明としない芸術に思いを馳せることができ、さらには、人工知能であれば可能性は開けるのだろうか、想像力を逞しくすることさえできるのです。

最大の演目は、アイヴズ作曲《交響曲第 4 番》の 2011 年改訂批判校訂版による日本初演です。夏田昌和 正指揮、浦部雪 第 1 副指揮、西川竜太 第 2 副指揮・合唱指揮、秋山友貴 ソロピアノ、ヴォクスマーナ・混声合唱団空・女声合唱団暁による合唱、タクティカートオーケストラ（ゲスト・コンサート・ミストレス：甲斐史子）による管弦楽演奏、さらに、大矢素子 オンド・マルトノ、井川緋奈 オルガンを迎え、総勢 132 名という大所帯でお届けします。

大須賀かおりと及川夕美の演奏による 2 台ピアノと 4 手のためのデュオ曲（アイヴズ《3 つの四分音曲》他）、秋山友貴の演奏による 2 台ピアノと 2 手のためのソロ曲（ハース《スティーヴ・ライヒ讃》）、そして、無人で演奏される自動ピアノ曲（ナンカロウ《習作》）他も、演目に含めます。オーケストラとの転換時間には、音楽評論家で慶應義塾大学法学部教授の片山杜秀、同じく慶應義塾大学法学部教授の大屋雄裕にご登壇頂き、第 43 回 AI 美芸研シンポジウム「演奏家に指が 10 本しかないのは作曲家の責任なのか」を開催します。

数ヶ月前にリニューアル・オープンし、大型の自動演奏装置を複数常陳するパルテノン多摩の大ホールホワイエでは、アイヴズ、ナンカロウの資料展示に加えて、人工知能美学芸術研究会の新作《逆カクテルパーティー効果》や、水野貴明との共作《コンセプチュアル・ウイルス》、《人工知能美学芸術年表》他の諸作をお目に掛けます。大ホールとホワイエを連続的に繋げ、音楽や美術や科学といったジャンルにとらわれない総合的なコンセプト提示を試みる展覧会です。

本企画開催にあたっては、アメリカのチャールズ・アイヴズ協会から御後援頂き、ALEPO 株式会社、NPO 法人 AI 愛護団体から御協力頂いております。また、文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業として助成を頂いておりますほか、大勢の皆様から御支援頂いております。さらには本日当会場にお越しの皆様、12 月 27 日から 31 日までのアーカイブ配信視聴予定の皆様によっても多大に支えられております。この場を借りて御礼申し上げます。

本日は、アイヴズから人工知能の未来までも俯瞰する本企画にお立ち会い下さいまして、誠に有難うございます。心ゆくまで、お楽しみ下さい。

令和 4 年 12 月 25 日 パルテノン多摩にて

人工知能美学芸術研究会
中ザワヒデキ
草刈ミカ

